

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22 年 1 月 18 日 開始 10 時 20 分 ~ 終了 15 時 00 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゆうゆう (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>羽原 高代</u> 氏 名 <u>土谷 静子</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者 / 主任 / 介護計画担当</u> 氏 名 <u>近藤ひとみ / 清田文子 / 若林ゆりか</u> ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3474500117	(評価機関で記入)
法人名	新市介護福祉サービス ゆうゆう	
事業所名	グループホーム ゆうゆう	
所在地	広島県福山市新市町大字新市888番地 (電話) 0847-51-3300	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 22 年 1 月 18 日	

【情報提供票より】 21 年 12 月 3 日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 8 人 非常勤 3 人 常勤換算 9.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.6 歳	最低 73 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀬尾医院 おきとう歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 22年2月10日

近くに市の支所があり、周辺は住宅も多く落ち着いた環境にある。1階は併設のデイサービスで2階がグループホームになっていて、落ちついた感じの空間が広がり、利用者も穏やかでゆるやかに時間が過ぎている雰囲気である。毎月の家族会、書道教室、陶芸教室、フラワーアレンジメント等を実施し、利用者の作品がさりげなく飾ってある。利用者のその人らしさを大切に、残存機能維持に努めたケアも実践されていて、出来る事をしてもらう支援、時間がかかってもゆったりと見守るケアを重視し取り組んでいる。また職員一人ひとりの役割を活かし、チームワークが取れそれぞれが目的意識を持ち日々のケアに活かしている。階下の併設通所介護事業所と連携をとり、レクエーションの実施や季節の行事で外出などを積極的に取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は真摯に受け止め、内容は全職員に目を通してもらい、ケアを振り返り、改善点をどうするか話し合っ、具体的な改善に向け、現在も継続し取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はミーティング等で職員から意見を出してもらい、管理者、主任、介護計画担当で自己評価票を作成した。評価を通してケアについての再確認の機会とされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2ヵ月に一度、利用者の家族、地域包括支援センターや行政の職員、民生委員らに参加メンバーに開催している。事業所側から活動報告や現状を報告し、また参加メンバーから意見をもらうなど双方向的な会議となっている。地域住民の参加がないので地域性の諸事情を考慮しながらも、地域の人々の協力は不可欠である為、引き続き運営推進会議への参加を呼び掛けていかれる事が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃より家族に何でも言ってもらえるような関係作りに努めている。毎月家族会を開催しているので、定期的な報告の他にも職員の異動等もその場で報告をし、情報提供を積極的に行なっている。家族会で出された意見や要望はミーティングで話し合い、即対応するよう努め、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域住民の一員として清掃活動には積極的に参加している。また盆踊りなどにも利用者と共に参加して交流に努めている。事業所の玄関前の黒板に『今日の一言』を書き出し地域の方等が入りやすい雰囲気となるよう工夫をされ、普段からも挨拶を積極的にし顔なじみの関係となるよう取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、地域密着型サービスとしての役割を職員全員で考え、グループホーム独自の理念を作りあげている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティング、カンファレンス、朝夕の申し送り時に理念を意識し、利用者個々のその人らしさにどう向き合うか、言葉かけ・態度等を確認して、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段の挨拶や地域住民の一員として清掃活動等には積極的に参加したり、盆踊りにも利用者と共に参加して交流に努めている。事業所の玄関前に今日の一言を黒板に書き出し、近隣の人々との話のきっかけとされている。		
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティング等で職員から意見をもらい、主任と介護計画担当者と三人で自己評価を作成した。外部評価の内容は全職員に目を通してもらい、ケアを振り返り改善点について引き続き取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を概ね2ヶ月に一度、利用者の家族等、地域包括支援センターや行政の職員、民生委員らを参加メンバーで開催している。事業所の状況報告や参加者に意見をもらい、運営に反映している。		地域の人々の諸事情を考慮しながら、引き続き地域住民の参加を呼びかけられ地域の理解や協力が得られる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政による地域ケア会議に月1回程度参加し、顔なじみの関係が築かれ連携も深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月行事を兼ね家族会を開催しているので、その際普段の様子や職員の異動等についても報告をし、情報提供を積極的に行なっている。ゆうゆう新聞は毎月送付し、個々の連絡は必要に応じて電話などで行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から意見や要望について気軽に言ってもらえるよう声かけをしている。家族会や個々に出された意見、要望等はミーティングで話し合い、改善に向け取り組んでいる。更に申し送りノートに記入し職員全員で共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で最善の努力をし利用者のダメージを防ぐよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は充実した内容で計画的に実施されている。外部研修は積極的に参加するよう職員に声かけを行い、参加者は毎月の全体会議で発表し研修報告書も全職員で共有する仕組みとなっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域連絡会に参加して、地域同業者と情報交換に努めている。交流を通じて質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得してサービスを利用できるまで職員が寄り添い、コミュニケーションをとりながら、他の利用者・場の雰囲気に馴染んでもらえるよう家族の協力を得、対応している。生活歴を重視し、日中のリズムを崩さないよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中でいろいろな事を同じ立場で一緒に行なう関係である。利用者から昔のこと等を教えてもらったりお互い支え合って生活している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけをしっかりとし、また、時間をとって傍に寄り添い、意向の把握に努めている。困難な方には表情や小さな言動で思いをくみ取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者担当から本人や家族に意向を聞き取り、カンファレンスで職員全員と話し合いそれを基に計画担当者が作成されている。また出席できない職員にも周知している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はモニタリングを基に3ヵ月から6ヵ月で定期的に見直しを行なっている。利用者の状態が変化があれば即検討、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて専門医への受診同行等柔軟な支援をしている。職員対応で出来る事は可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望で利用前からのかかりつけ医に往診に来てもらっているケースもあり利用者にとって安心した体制となっている。週1回程度の訪問歯科の支援もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時、重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応できる最大限のケアの説明・ターミナルケアに向けての説明をし、同意を得ている。職員全員で方針を共有し、すでに、かかりつけ医・家族と協力しながらターミナルケアに取り組んだ。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の社内研修で、接遇の勉強をし、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけに注意をしている。記録等の個人情報の取り扱いも配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況、状態に職員が合わせていくよう努め、本人本位の生活となっている。声かけで起床されない場合などは利用者の意思を尊重し希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等も職員と利用者が出来る範囲でゆっくりと時間をかけて一緒に行い、同じものを一緒にテーブルで食べている。ほとんどの利用者が完食であり楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向に沿った入浴支援をしている。毎日の入浴希望者には毎日、入浴を拒む人に対しても週3日の入浴を楽しめるように言葉かけに工夫し清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が利用者個々に合わせて掃除・洗濯・炊事を一緒に行なっている。個性を尊重して自己決定の場面を作り、陶芸・フラワーアレンジメント・書道等の気晴らしの支援をしている。本人の喜びに繋がるよう家族に電話をかけることもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は畑の草取り・散歩・買い物等の外出を好まれる。季節を肌で感じてもらい心身の活性化につながるよう、個々の要望に出来るだけ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠している。日中はデイサービスと事務所が階下であり、職員が目が行き届いているので施錠してない。外出傾向の利用者は現在はいないが見守りを重視している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防火訓練を利用者と職員と一緒に実施して、避難経路の確認・消火活動も体験している。マニュアルも作成し、日常的に話し合っている。		引き続き地域住民に参加協力を呼びかけられ、災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていかれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を介護記録に記入し、職員が情報を共有している。一日全体を通じた食事バランスがよく・飲み込み易いように軟らかく、季節の食べ物を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くゆったりとしていて、ソファやチェストを所々に配置し、生花が活けられ生活感や季節感を採り入れ、利用者にとって安心してくつろげる場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意向を確認しながら家族と一緒に、使い慣れたもの・写真等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせる部屋である。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ゆうゆう

評価年月日 2010年 1月 18日

記入年月日 2009年 12月 9日

記入者 代表/管理者 氏名 近藤 ひとみ

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所全体の理念に合わせ、グループホーム独自の理念を全職員で決め、実行にあたっている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々のミーティング・カンファレンス時に声かけ、意識確認などを定期的に行っている。	全職員に連絡事項が行き届いているかの確認を行うため、確認後、各個人で印鑑を押し、周知徹底を再度行う。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	事業所全体の理念・グループホームの理念をリビングに掲示している。運営推進会議を利用し、家族、民生員の方に理解してもらっている。	地域住民の方への説明を行い、理解を深めたい(運営推進会議等を利用)
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	月に一度、近隣の清掃活動を行う際や、日常的に屋外に出た際に、近隣の方と顔を合わせたら挨拶を交わし、世間話などをし、親近感を持ってもらえるような声かけを実施している。	運営推進会議などを通して、意見を頂いたり、町内会での行事などにも更に参加し、付き合いを勧めていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	学区の夏祭りなどには積極的に参加している。	ボランティアの受け入れを定期的にしていきたい。コミュニティセンターなどで実施されている行事にも積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			介護相談や介護教室など、地域住民を対象としたものを開催していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、前向きに取り組んでいくように心掛けている。外部評価の結果は、ミーティングなどの機会に報告し、改善に向けての具体案の検討や実践につなげるような努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、包括職員や、市町村職員民生委員、御家族様からの意見をいただき、今後のサービス向上に向けての参考にさせてもらっている。		地域住民に向けて、運営推進会議を開催していることを公表して参加していただきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政による地域ケア会議に毎月参加し、連携を密に行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にも参加し、必要性や詳しい内容などを勉強し、職員やご家族様にも必要があれば説明をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待などの研修に参加し、職員に報告している。虐待防止の理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけて丁寧に説明を行っている。特に、重度化や看取りについての対応、医療連携制度については詳しく行い、同意を得るようにしている。解約の際も同様に時間をかけ説明している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	出来るだけスタッフが声をかけ、ご本人やご家族とゆっくり話をする機会を設けている。意見や苦情があった場合は、適宜、全職員で話し合いをし、日々のケアに反映できるよう心掛けている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月家族会を行っており、その際に日常生活の様子、健康状態についての説明、金銭出納帳のチェックなども併せて行っている。職員の異動に関しては、その都度で説明し理解をいただいている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族様には家族会などでお話をお聞きしている。何でも話してもらえるような関係作りにも努めている。出された意見については、ミーティング等で話し合い、反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に2回、ミーティング・カンファレンス、月に1回スタッフ会議を行い、意見を聴くようにしている。日頃から話が出来るとようなコミュニケーションを取るよう心掛けている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	日勤帯で受診や買い物などの活動が行えるよう、職員の配置には配慮している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	入居者の方々とスタッフの信頼関係を築くためにも、顔なじみの職員が対応する事が重要だと考えており、移動や退職者等のやむを得ない場合でも、その時期や引継ぎ面での最善の努力を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
J			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外で開催される研修会や勉強会には、なるべく多くの職員が受講できるよう、勤務の調整をしている。研修報告も会議の場やカンファレンスの場で発表できるよう取り組んでいる。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、毎週地域で行われている連絡会に参加をし、地域の同業者と連携を取ったり、ネットワーク作りに努めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員と面談をし、悩みやストレスについて聞き、想いを把握するよう努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所として、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を実施している。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった際には、必ず本人様に会い、心身の状態や想いに向き合い、職員がスムーズに受け入れる事が出来るように関係作りに努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様が困っている事、感じている事、望んでいる事などをよく聞き、どのような対応が出来るかを検討し、希望に添えるような対応を心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の思い、状況を聞き、改善に向けた支援の提案、複数の選択肢を提示し検討した上で支援を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずご本人に会い、面談をしたうえで入居をしていただいている。やむを得ず、すぐに入居となった場合はご家族様や関わっていた関係者の方に面会に来ていただき、理解してもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、食事を共にしたり、生活の空間を共にする事でお互いに支えあう事の重要性を理解し、日々の業務にあたっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の際に、日々の状況などを詳しく伝える事が出来るようにしている。ご家族様からの要望も積極的に聞くようにし、ご本人を支えていくための関係作りをしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会への参加の呼びかけ、面会に来ていただくなど、関係が途切れないように留意している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもちろん、馴染みだった方、親戚などの面会も自由に行えるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中での役割活動を通して、入居者同士の関係が円滑に行えるよう働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、しっかりと話をし、個々の要望などを聞き取るように努めている。また、意思疎通困難な方には、家族様より情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に、今までどのような生活を送っていたかなどのアセスメントをしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は、入居者の方々の出来ることや、現状を理解・把握し、個々のペースにあわせた支援を行うよう心掛けている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期定期にケアカンファレンスを開催し、介護計画書の見直しをし、要望などが反映出来るような書式を使い、全職員が一読し、理解できるような形を取っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月に一度の見直しを行っている。状態が変化した場合は即時見直し・変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の方々の状態・状況は、ここの介護日誌に記載し、職員間の情報共有を行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスなどと協同し、外出行事や、夏祭りなど、大勢で実施できるような行事にも参加し、柔軟な対応が出来るような支援を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に、民生委員、警察、消防の方に参加していただき、意見をいただき、協力体制を構築している。		今後は、ボランティアの方や文化、教育機関等の協力をえられるようにしたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療的な支援が必要になった場合など、他の施設への連携を図るなどの支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、意見を頂いたり、困難ケースがあった場合の相談役になってもらえるような関係を作っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望される医院・病院を主治医として対応を行っている。希望されれば往診を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、協力医の他、定期的また、必要時に往診に来ていただける医師が数名いるので、必要に応じて随時相談が出来たり診断・治療が出来るような体制を整えている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務ではあるが、計画作成担当者が看護師であり、併設のデイサービスには看護師が勤務しているので、健康チェックや処置などを行っている。また、緊急時にはその看護師に24時間体制で連絡がとれるような体制をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐように、病院関係者との話し合う機会を早期に持ち、事業所内での対応が可能な段階で、なるべく早く退院が出来るよう努めている。また、ご家族とも情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業者が対応しうる最大限のケアについての説明をし、同意を得ている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時や家族会の際に、ご家族の意向などを聞き取り、ターミナル期に向けた話し合いを行っている。当施設で出来る事・出来ない事についても説明を行い、同意を得た上でターミナル期に備え準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所への転居・入院などの際には、情報提供所を渡すと共に、情報交換を行うなど、住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>毎月、社内で行っている研修の中で、接遇研修を取り入れている。入居者の方の個性を尊重し、プライバシーを損なわないような対応を職員一同で取り組んでいる。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>複数の選択肢を提案し、入居者の方が自己決定出来るような場面を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは決まってはいるものの、時間を区切ったような生活はせず、あくまでも入居者の方の状況や状態に合わせた生活を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の方と一緒に買い物に出かけ、自分の身の回りの物などを中心に、好みの物を購入していただけるよう支援している。また理髪は定期的に行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>おやつ作り、昼食・夕食作りは入居者の方と職員が出来るだけ一緒に作っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物に出かけた際欲しいものなどを伺い、支援を行っている。喫煙・飲酒については、希望に応じて対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	個々の排泄パターンを把握し、適宜、声掛けや誘導を行っている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	毎日の入浴を実施しており、入居者の方の要望にあわせ入浴支援を行っている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	日々の活動やレクリエーションへの参加を促すなど、生活リズムを整えるよう努めている。また、個々の睡眠パターンを把握し、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	畑仕事や家事などをしてもらい、個々に合った支援を行っている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	金銭管理が困難な為、ご家族と相談の上、施設でお金を預かり施設内で管理している。		今後、個人で管理出来る方の入居などがあった場合は、個々に合わせた対応を行っていきたい。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	天気の良い日には散歩や買い物に出かけるなど、外出する機会が増えるよう支援している。畑仕事が好きの方は、畑仕事をする機会を持ち植え付け収穫、管理などを一緒に楽しんでいる。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	日常の会話などから行きたい所などを聞き、可能な限りで外出先に選び、出かけるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の要望がある場合、希望に応じて対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、ご本人の居室での宿泊も要望があれば応じるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、定期的に身体拘束についての勉強会も行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構築上、死角となる場所(階段など)には安全確保のため、やむを得ず施錠を行っているが、その旨は、入居時にご家族への説明も行っており同意を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者の方と同じ空間で記録等を行い、さりげなく全員の状況の把握をするように努めている。夜間は2時間おきに状況を確認すると共に、起きてこられた際には、すぐに対応出来るよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方の状況に合わせてながら保管・管理を行っている。刃物などは、入居者の方の手の届かない、目に付きにくい場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態から推測できるリスクを検討し、事故を防ぐ為の工夫に取り組み、誤嚥のリスクの高い方には、必ず見守り等を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が救命救急の講習を受け、定期的に勉強会なども行っている。また、夜間の緊急対応マニュアルを作成し、フロアに掲示している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日常的に入居者の方とスタッフ間で、災害時やその際の行動についても話をしている。定期的に防火訓練も実施しており、消火体験なども行っている。		今後は、地域の方の協力体制の基盤も整えていく必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎月の家族会のときに、ご家族に説明を行っている。起こりうる様々なリスクについての説明を行い、ご本人にとって、抑圧感のない暮らしを大切にしたい具体的な話し合いを持つようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況をスタッフは把握しており、少しでも異変が見られた場合には、バイタルの測定等を行い、記録に残し、状況に応じて医療機関への相談・受診対応をしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬状のコピーをとり、個人カルテに挟んで、いつでも見れるようにしている。変更があればその都度入れ替えをしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事作りやおやつ作りの際に、バランスを考えて調理するように心掛けている。また、散歩や家事活動、レクリエーションなどを通して身体を動かす機会を設け、自然排便を促すよう努めている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや、必要に応じての介助も行っている。就寝時には義歯の洗浄も行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量などを毎回介護日誌に記録し、スタッフ全員が大まかな摂取状況を把握している。食事の献立は残している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者の方を始め、スタッフもインフルエンザの予防接種を受けている。また、起こりうる感染症については全職員で勉強し、予防や対策に努めている。感染予防のためペーパータオルを使用している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾、食器類を毎回漂白し、清潔を心掛けている。また、新鮮で安全な食材を提供するために、買い物にはこまめに行くようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に案内板を設置し、親近感を持っていただけるような情報の発信を行っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音や、ご飯の炊ける匂いなどの五感から得られる安心感や、季節に応じた食べ物のどを積極的に取り入れるなどの工夫をしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置いたり、畳の空間を作り、リビングにはソファを設置し、個人で過ごせたり、気の合う仲間と過ごせるスペースを作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやなじみのある物がある事によって、安心感を持って生活していただける事の説明を行い、在宅で利用していた物を出来るだけ持ってきていただくようお願いをしている		随時、ご家族へのお願いをしているが、処分しているといった返答が多い。新しく入居する方に関しては、入居時に説明をし、なじみの物で生活をさせていただくようお願いをしている
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調節については、温度計と入居者の方の様子を見ながら行っている。空気の入替も定期的に時間を見て行っており、トイレについては、換気扇による換気と、消臭剤にて悪臭が出ないように工夫をしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方に合わせて、手すりや浴室、トイレや廊下などの設計がなされている		シンクの高さなどは改善や改修が困難であるが、それらも、スタッフと一緒にすることで安全を考慮しながら支援をしている
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の入居者の状態に合わせた環境整備を行うよう努めている。また、日常生活の中で、スタッフ間で個々の状況について話し合いをし、安心して生活していただけるよう努めている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外に畑を設けており、花や野菜作りのど、日常的に楽しみながら活動が行える環境を作っている		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月、家族会や書道教室や陶芸教室やフラワーアレンジメントを実施している。
併設の通所介護事業所と連絡を取り合い、大勢で出来るレクリエーションや季節行事、外出なども積極的に取り入れる。
利用者の身体的な状況に応じて、家庭的なお風呂に入れなない時は、安全面も考慮して、特浴での支援も行っている。
担当制にし、日常生活の支援を行っている。